

会報 ながの

第201号
平成29年夏



長野県土地家屋調査士会



土地家屋調査士倫理綱領

1. 使 命
不動産に係る権利の明確化を期し、
国民の信頼に応える。
2. 公 正
品位を保持し、公正な立場で
誠実に業務を行う。
3. 研 鑽
専門分野の知識と技術の向上を図る。

表紙写真の説明

「長野県土地家屋調査士会館」

日頃、皆様に親しまれている我が会館も今年で満30歳となりました。
寄る年波には勝てず老朽化が進んでいますが、どうか長生きされることを祈っています。



会長就任にあたってのご挨拶

会長 松本 誠吾

この度の第69回定時総会において長野会会長に選任頂きましたこと、改めまして厚く御礼を申し上げます。

さて、総会の議事も承認され、新役員体制による平成29年度事業が始動しました。

継続事業である調査士予防司法の業務としては空き家対策、所有者不明土地への対応、相続登記の促進、法務局14条地図整備、筆特制度、ADR制度の活用、認定調査士の活用等、各事務所に於いてはオンライン申請、世界測地系への移行、地理情報システムGISの活用を、社会活動としては災害対策、士業間・行政機関との連携等を、引き続き各部で分掌して進めていかなければならないものです。

我々は法第一条「土地家屋調査士の制度を定め、その業務の適性を図ることにより、不動産の表示に関する登記手続きの円滑な実施に資し、もって不動産に係る国民の権利の明確化に寄与することを目的とする」を根底に事業を定めています。

新年の挨拶で、本年念頭の一字は我々の職域である衣食住の「住」の言葉を重きに考えるものとし、事業計画大綱で改めて「住」が今直面している少子高齢化社会が市民生活への影響に、調査士の対応が必要不可欠と申しました。

今や空き家どころか、地域によっては市街化地区の持ち家のおおよそ2割が一人暮らしという調査も終えています。政府の「骨太の方針」を眺めるだけでなく、いかに制度を活用して行くか、行政から地域自治まで目を向けた活動も必要と感ずるところです。

しかしながら、現実本会は資金も、人手も、時間も制限のある役員皆現役の調査士でもありますので、冷静な分相応の活動が好ましく、健全な会運営を保てるよう「無理はしません努力はします」をモットーに、一つ一つ出来ることから臨ませて頂きますが、ご理解頂けますようよろしくお願いいたします。

先ず、本会が一昨年より継続している国が進める空き家対策事業への関与は、入会できた「長野県空き家対策支援協議会」本体から振興局「空き家対策地域連絡会」へと事業伝達され、今後は現場である各市町村に置かれる「空き家対策協議会（検討会）」が主役となって様々な実態事例の処理に関わって行くものと推察します。そこに我々が培ってきた法令制限での関与、ア

ドバイスは必ず必要となる場面があると確信しておりますので、会員皆様が各市町村で率先して協議会の委員として活躍されますようご協力をお願いいたします。

また、昨年は長野県と弁護士会、司法書士会、税理士会、当会ほか全8士業に於いて「災害時における相談業務の支援に関する協定」の締結も実現し、本年2月末には長野地方法務局、長野県司法書士会、当会3者における「災害時における相談事業の連携に関する協定」が締結されました。地震、水害等の自然災害が頻繁に起こる長野県にとっては、当協定をもって隙間を埋められる、更なる民間サポートが期待される場所です。危機管理を忘れること無く、皆様と共に市民の心に寄り添う仕事を作り上げていきたいと考えておりますのでご協力をお願いいたします。

不動産登記法の全面改正から早12年、筆界特定制度、ADR制度は早期に整いながらもなかなか調整の付かなかった連携も、漸く筆界特定室と「境界問題解決支援センター長野（ADRセンター）」の相談連携が実現し、実績を重ねています。境界問題の話聞いてあげるとは根気のいる作業であり、地道に相談業務を継続しております法務局ならびに本会相談員の皆様には頭の下がる思いです。皆様には格別なる担保力が身につくものと信じておりますので、これからも引き続き切磋琢磨、当事業を育んで行って頂きたく願っております。我々の存在意義の確認は、法務局と司法書士会と共に歩み、他士業ならびに行政との連携、協力体制を整えて行くことにある、と考えています。

「人は力なり」関わる個々の会員の得意分野を活かし、各々が活躍できるよう、チャンスを活かせるように支部との連携を図り、本会の強い体質造りに努めて参る所存です。

前期の730日間の日々はあつという間でした。共に歩んで私をサポートして頂いた前役員の皆様にはこの場を持って改めて厚く感謝を申し上げます。「光陰矢のごとし」当職社会に還元すべく頂いた730日、卒論を視野に会務に専念する所存ですのでご支援頂けますようどうぞよろしくをお願いいたします。

※予防司法とは、将来において国が当事者となる紛争・訴訟の発生を防ぐため、事前に法的措置を講じておくこと。



「着任の御挨拶」

長野地方法務局長 本 田 法 夫

本年4月1日付けで高松法務局から異動となりました。長野地方法務局勤務は初めてとなりますが、前任者同様、よろしくお願いたします。

長野県土地家屋調査士会並びに会員の皆様には、不動産の表示に関する登記の専門家として、登記の申請手続の代理や筆界特定手続の代理のほか、民間紛争解決手続の代理など、市民生活の様々な場面で活躍され、不動産に係る国民の権利の明確化に御尽力されるとともに、平素から、当局が行う法務行政に対しまして、格別の御支援と御理解をいただき、厚く御礼申し上げます。

法務省民事局におきましては、平成27年度に、「大都市型登記所備付地図作成作業10か年計画」及び「震災復興型登記所備付地図作成作業3か年計画」とともに、「登記所備付地図作成作業第2次10か年計画」を策定し、従来から全国で行っている登記所備付地図作成作業の実施面積を拡大して実施しており、本年度は、本計画の3年目に当たり、当局におきましても、長野市吉田2丁目地区におきまして2年目作業を、長野市吉田3丁目地区におきまして1年目作業をそれぞれ実施することとしております。本年6月9日に閣議決定されました「経済財政運営と改革の基本方針2017」に「登記所備付地図の整備」等が明記されるなど、登記所備付地図の整備の重要性が各方面に広く認識される中にありましては、この事業を確実に実施することが重

要でありますので、引き続きの御協力をよろしくお願いいたします。

さて、空家問題が社会問題化しているところ、土地家屋調査士の皆様が積極的に取り組んでいられるものと承知しており、当局も連携させていただき、問題解決に向けた取組を実施していきたいと考えております。

近時は、この空家問題に加え、いわゆる所有者不明土地問題も注目を集めるところとなっております。平成27年に国土交通省を事務局とする有識者会議が立ち上がり、法務省も参加して行った検討会の最終とりまとめでは、これらの問題の更なる拡大を防ぐためには、相続登記を促進することが重要であることが確認され、さらに「経済財政運営と改革の基本方針2017」等においても、相続登記の促進に取り組むことが政府の重要施策として掲げられ、昨年からは、法務省民事局、日本土地家屋調査士会連合会及び日本司法書士会連合会が連携して、相続登記の促進に向けた取組を行っておりますので、引き続き、よろしくお願い致します。

さらに、本年5月29日から、この取組の一つの施策として、「法定相続情報証明制度」を導入しました。法定相続人又はその代理人から、申出書とともに、収集した戸・除籍謄本等と作成した法定相続情報一覧図を法務局に提出していただき、登記官が内容を確認し、法定相続情報一覧図の写しに認証文を付して申出人に交付します。法定相続人は、交付された法定相続情

報一覧図の写しを、戸・除籍謄本の束の代わりに各種手続において提出することで、スムーズな手続が可能となるものです。代理人には、法定代理人のほか、資格者代理人として土地家屋調査士がなることができますので、積極的な活用をお願いいたします。

法務局におきましては、定員の純減が続いておりますが、職員一丸となって、これらの情勢に対応すべく様々な施策を展開し、筆界特定申請を含む登記申請事件の適正かつ迅速な処理の実施、行政サービスの推進などに取り組んでおります。

行政サービス推進の一環として平成23年度から開催している「全国一斉！法務局休日相談所」は、国民の皆様から、継続して実施してほしいとの好評を得た取組となっており、昨年度は10月2日（日）に、県下2か所で開催し、貴会から4名の会員を相談員として派遣していただきました。改めまして、感謝申し上げます。なお本年度は、10月1日（日）に開催する予定としておりますので、引き続き協力賜りますようお願いいたします。

お願いいたします。

また、法務局が推進する重要施策であります「オンライン登記申請の利用促進」につきましては、法務省改善取組計画におきまして、平成29年3月時点のオンライン利用率の目標を69パーセントとして取り組み、貴会の御支援と会員の皆様の御協力をいただいたところですが、県内の利用率は目標を下回った結果となりました。今後も利用しやすい環境作りと利用促進に取り組んでまいりますので、更なる御支援と御協力をお願いいたします。

最後に、当局では、本年度の基本方針を「信頼され進展する法務局を目指して」と定め、法務局の果たすべき使命を自覚し、行政サービスの維持、向上に力を尽くしていく所存です。引き続き、貴会及び会員の皆様の変わらぬ御支援と御協力をお願い申し上げます。

終わりに、貴会のますますの御発展と会員の皆様の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、着任の挨拶とさせていただきます。

略 歴

- 昭和53年4月 東京法務局世田谷出張所
- 平成14年4月 仙台北法務局古川支局総務課長
- 平成16年4月 仙台北法務局訟務部民事訟務部門上席訟務官
- 平成18年4月 東京法務局世田谷出張所統括登記官
- 平成20年4月 仙台北法務局会計課長補佐
- 平成21年4月 仙台北法務局訟務部行政訟務部門上席訟務官
- 平成22年4月 山形地方法務局首席登記官
- 平成24年4月 釧路地方法務局総務課長
- 平成26年4月 仙台北法務局民事行政部首席登記官（不動産登記担当）
- 平成28年4月 高松法務局人権擁護部長
- 平成29年4月 現職



役員退任のご挨拶

前副会長 菅澤 徹 夫

私は、大町支部と言う県内でも2番目に小さな支部の会員であったため他支部とは違った立場で会務に接して参りました。つまり私の先輩方が不慮の事故、病気、宗教などによりいなくなってしまったため、やむを得ず支部を代表しての役員という立場に立つということが多かったと思います。

公嘱協会理事を含めると約20年間長野会と向き合ってきました、その中でも私が一番思い出に残っているのは、業務研修部長の時に測量研修委員会を立ち上げた事でした。土地家屋調査士の約4割は出身が測量業以外であるというアンケートがあり、法令の研修は盛んにありましたが、調査士としての測量研修が不足している

と思い、立ち上げることに致しました、正直理事会の中でも異論がありましたが、結果として測量研修マニュアルがホームページにアップされた事に満足しています。AIの時代に資格代理人として調査士が残るために必要なことは、人間の人生の中で、人間でしか出来ないことを職業とすることです。調査士の必要性がますます高まるよう、その姿が多くの人々に分かるよう努力を重ねることが大事でしょう。1人の調査士として、努力をこれからも続けて行きたいと思っております。在任中には多くの調査士の先生から多大な恩恵を受けました、20年間のご褒美だと心にしまっておきます。大変長い間お世話様になり、心から感謝を申し上げます。



役員退任のご挨拶

前副会長 猪飼 健一

去る5月26日の第69回定時総会をもちまして副会長職を退任させていただきました。この2年は財務部長兼任の財務部・社会事業部担当として精一杯松本会長を支え務めて参りました。

この間前任の芦澤名誉会長や小山前副会長など諸先輩のご指導をいただきながら金田、竹花、菅澤副会長とともに山積する問題や課題に悩み、時に本音をぶつけ合いながら盃を酌み交わす大

変充実した日々でした。

本会役員としての出発点は宮下会長から会長推薦をいただき総務部理事からで、証紙廃止問題や定額会費制への移行という時期で当時の総会運営に非常に神経を使った記憶があります。

2期目は広報部長として本会ホームページのリニューアルを手がけ、会報記事の特集にも編集委員のご協力で多くの良い記事が掲載できたと感じておりますが、最も印象深いのは本会事業部の再編のきっかけとなった平成26年11月に発生した神城断層地震で、法務局、司法書士会と共同して白馬・小谷村での「心配ごと相談会」を担当し大町支部の皆様に変なご協力をいただいで実施したことでした。

それまで栄村の北部地震や木曽の土石流など自然災害が相次ぎ、当会が官庁や他土業等と共同で事業を実施したり、協議を担当する部署がそれまで明確ではなく、その都度決めて行っておりました。

そこで当時の芦澤会長にそれらの対外的窓口となる社会事業部の設立を提案し、総会で承認いただき1年間準備委員会で内容を吟味してようやく28年度に社会事業部が活動開始しました。ご存知のとおり災害対策として県、法務局、弁護士会等とそれぞれ協定を締結し連絡協議会に参加しております。また既に空き家・所有者不明土地問題が大きな社会問題として取り上げられ、土地家屋調査士が積極的に関与しなければならない場面が求められております。

まさに本会だけでは解決できない対応を担うことになり、世間に土地家屋調査士の活躍を認知していただく絶好の機会でもありタイミングが良かったと感じています。

財務部としては年々会員が減少し会費収入が確実に減少傾向にあり、事業部活動を拡大することは慎重にならざるを得ず、上記の状況を踏まえ歯がゆいところでした。

そのような中でこの4年間で日調連の筆界特定制度推進委員会に在籍し、年に数回東京の会館において筆界特定制度について日調連役員、各会代表の理事、委員と議論することがあり、本会では得られない人脈と斬新な考え方に言葉では言い表せないほどの刺激を受けたことは自分の財産となりました。

ということは、私が日調連で感じたことと同様、初めて本会役員になれる方にだって十分刺激があるはずですよ。勝手な持論ですが、今後若い会員や入会間もない会員にも本会理事になっていただき年配者と議論し、人脈を広げ、最新の制度を理解していただくとてもいい場所だと考えています。そしてその経験を支部に持ち帰り生かしていずれまた本会で活躍いただければいいと思います。役員は調査士で稼いでいくために5年～10年先を見越し活動する場です。

副会長は退任しましたが、まだ政治連盟で幹事長を務めており、新たな役職も拝命しましたので全く本会から離れる訳ではありませんが、

お世話になりました社会事業部・財務部の皆さん、事務局には心から感謝申し上げます。

理事の皆様のご活躍とご健康を祈念し退任のご挨拶といたします。

素晴らしいメンバーとなった新しい執行部、



副会長に就任して

副会長（総務部・財務部担当） 飯田支部 **金 田 政 孝**

先の総会において、副会長に選出して頂きました。松本会長のもと今期の長野会の運営に参画させて頂きます。松本会長を船長とする松本丸の2度目の航海になる訳ですが、空模様はどうか、針路はどこに向けるべきなのか、手探りで航海になるものと思います。微力ではありますが、精一杯務めさせて頂きますので、よろしくをお願いします。

さて、ご存知のように、土地家屋調査士がその業務を行うためには、都道府県に1個設立された土地家屋調査士会に入会する必要があることが土地家屋調査士法により明定されています。強制入会制が採られている調査士会とその会員である調査士の関係から、調査士会には所属する会員に対して業務に関する有益な情報を的確に伝える連絡事務を担い、研修の機会を提供する責務があることとなります。本会としても、適時、会員にとって有益な情報を提供し、業務に関する法令及び実務に精通することを目的として、会員研修会を企画・運営しているところ

ではありますが、昨今、研修会を含め、本会事業に参加しない会員の固定化といった問題も取り沙汰されており、会員の調査士会への帰属意識の希薄化といったものも多くの会員の方々が感じているのではないのでしょうか。

現在は、広域的且つ複層的に情報が飛び交う時代です。本会が外部からの要請に応えなければならぬことは増加する一方ですが、そんな中、何よりもその対応に苦慮するのは会員に対する苦情問題です。一人の行為により調査士業界全体のイメージが形成されてしまいます。会員の皆さんには調査士会への帰属意識、特に倫理面での意識高揚に努めて頂きたいと考えているところです。そのために、本会としては何ができるのか・・・ということを探索しながらにはなると思いますが、今後の本会活動を進めて参りたいと考えております。2年間よろしくをお願いします。



就任のご挨拶

副会長（業務研修部担当） 伊那支部 **中 塚 憲**

このたび、松本誠吾会長より指名をいただき、第69回定時総会において副会長に就任、6月9日の第2回理事会で業務研修部担当を拝命いたしました。

平成4年登録、土地家屋調査士としては25年の馬齢を重ねてきました。役職歴は長野会役員3期6年、日本土地家屋調査士会連合会役員3期6年になります。

長野会の役員は平成19年から24年まで、連合会の役員は平成21年から26年まで、務めさせていただきました。10年前の平成19年、小出國正会長の時に理事として配属されたのが、業務研修部でした（この時の部長が松本誠吾現会長です）。平成21年からの宮下照也会長の時代には、財務部に移り、次長を2期4年務めた後、平成24年をもって長野会の役員を退いていました。

財務部に異動した平成21年に、関東ブロックから選出され、日本土地家屋調査士会連合会の役員となりました。1期目の平成21～22年は

(故)松岡直武連合会長の下で広報部理事、2期目（平成23～24年）の竹内八十二連合会長の代では常任理事研修部長、特別研修運営委員会委員長を務め、平成25年～26年の3期目では長野会の理事を離れ、林 千年連合会長の下、常任理事総務部長の任に就いていました。連合会役員を下りた平成27年から28年は、連合会の参与、また特別研修運営委員会副委員長として、連合会の会務には係わりつつ、現在に至っております。

このように、業務研修部は8年ぶり、長野会の役員は4年ぶりとなりますが、長野支部の平井克尚部長をはじめ、松本支部の三原 雅理事、同支部の清住利男理事、佐久支部の川上陽次郎理事とともに、一丸のチームとして最善を尽くしてまいりたいと思いますので、各支部、各会員の皆様のご協力を、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



副会長就任のご挨拶

副会長（広報部担当） 松本支部 **成 田 俊 雄**

第69回定時総会において中信地区より推薦され副会長に選任させていただきました。広報部担当ということでその責任の重さに戸惑っています。と言いますのも、会員の皆様向けの広報は思い当たることありますが、一般の方々へ

の社会貢献を通じた広報活動となると、なかなかアイデアが湧いてこないからです。副会長とは言っても、本会理事経験もない新入社員（役員）ですので、ここは会員の皆様のお知恵と御協力に頼るしかありません。「こんな活動があっ

たら地域の皆さんの役に立てるのではないか？」のような、何か思い当たることがございましたらお知らせいただけますようお願いいたします。予算が足りなくなると松本会長が青ざめるような活動ができたと思いますので、ご指導のほど宜しくお願いします。

さて、先日私には縁がないと思っていた日調連総会に参加させていただきましたので、少しばかり報告をさせていただきます。今回の総会では179の議決権があり、単位会の会員数に応じて議決権が与えられ、長野会は3票、東京会は10票など関東ブロックで約3分の1の議決権がありました。私も代議員として議決権を行使させていただきました。会期は2日間で、会長・

副会長選挙は1日目が投票のみで開票は2日目の最後でした。立候補者の方々には長い夜だったと思います。ご来賓の挨拶では盛山正仁法務副大臣が御祝辞代読の後、土地家屋調査士（制度）についてお話を戴き、凄く誉められたような・励まされたような内容で、木に上るような気持ちになったのは私だけでしたでしょうか？

これから2年間、初めて経験することばかりだと思いますので、紙面をお借りできる機会がありましたら御報告もさせていただきますと思います。会員の皆様のお知恵と御協力をお願い申し上げます。宜しくお願いします。



新任のご挨拶

副会長（社会事業部担当） 上田支部 竹花 伸一

5月26日大町市で開催された、第69回定時総会に於いて上田支部からの推薦を頂き副会長に選任されました。4期目の本会役員となります。

総務部を4年、業務研修部を2年務めさせていただきました。

今年度は、社会事業部を担当することになりました。

今年度の社会事業部の事業計画は、

1. 社会事業部活動に係る会議・他部との事業連携
 - ①広報部と「土地家屋調査士の日」の全国一斉不動産表示登記無料相談会実施
2. 法務局と「筆界特定と境界ADR合同相談会」の継続
 - ①筆特ADR連携連絡委員会による筆界特定とADRの連携活動

3. 各種他団体、官庁との協議会等渉外活動、対外窓口

①長野県と8土業による「災害時における相談業務に関する協定」運営窓口

②法司調災害時相談支援協定に関する窓口

③長野県空き家対策地域連絡会、その他空き家対策関係

4. 出前授業・イベント参加企画等講師派遣の検討（広報部と連携）

5. 地図の作成・整備に関する協議

6. 本会とADR運営委員会の連携、センター活用について

と殆ど対外的な事業でございます。

2年間の任期を部長はじめ他の部員と共に一杯務めてまいりたいと思います。

どうか会員の皆様のご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。新任の挨拶と致します。

部長就任のご挨拶

総務部長 上田支部 堀内 正 敏

総務部担当の金田副会長のもとで、このたび部長を務めさせていただくことになりました。理事職は2期目となりますが、1期目の1年目は業務研修部、2年目は新設された社会事業部

に所属しておりました。継続事業に空白を作らないよう、各位のお力を借り精一杯務めてまいりたいと思いますのでどうぞよろしくお願い致します。

業務研修部長に就任して

業務研修部長 長野支部 平井 克 尚

今年度より2年間業務研修部長を務めさせていただくこととなりました、長野支部の平井克尚と申します。

長野支部長終了後の前期2年間、理事として業務研修部に在籍しておりました。初めての本会役員となって県下10支部の存在と長野県の大さを改めて実感した2年間でした。業務研修部としてメインの事業である研修会の企画についてテーマ・講師の選定から開催に至るまでの試行や準備の積み重ねのほとんどを前伊藤部長に仕切っていただきましたので、理事の私は与えられた任務をこなすのが精いっぱいという2年間でした。

その私が今期理事2期目ということで、部長

という重責を担うこととなり正直、不安な思いもよぎりました。しかし会長、副会長、部長をはじめ多くの理事の皆さんと一緒に、長野会の土地家屋調査士業務において少しでもお役に立てることとなれば、微力ながらも精一杯務めさせていただきたいと思うようになりました。

よく言われる通り、我々土地家屋調査士は法令分野と測量分野という異なる領域を同時に扱っている専門職です。境界鑑定などの過去から積み上げてきた普遍的な領域もあれば、オンライン申請、GNSS測量、14条地図作成など最近関心を集めている領域もあります。

今期2年間の研修会についても、これらの領域をバランスよく考えて企画を行い、何よりも

会員のためとなる研修内容を考えていきたいと思っております。

まだまだ不慣れ故、不手際もありますが長野会皆様のご指導、ご鞭撻をお願いしたく就任のご挨拶とさせていただきます。

部長就任のご挨拶

広報部長 長野支部 松永宏樹

松本会長のもと、2年間広報部長を務めさせて頂く事になりました、長野支部の松永宏樹と申します。

前期は、社会事業部の一員として会務に携わって参りました。

今期からは広報部という事で、皆様に親しんで頂ける会報の作成と無料相談会開催の準備を

スムーズに進めて参りたいと考えております。

又、「土地家屋調査士」を世間にもっと知ってもらうため、寄付講座の開催を考えています。

頭の回転が鈍い分を、フットワークで補っていかうと思っています。

業務の性格上、お願いする事が多くなると思いますが2年間おつきあいをお願いします。

社会事業部長就任のご挨拶

社会事業部長 松本支部 田口正幸

昨年度に引き続き、社会事業部長に就任いたしました。社会事業部は、昨年度新設された部会であり、本会各部会との連携や官庁、他団体との渉外活動を主に担当します。

昨年度は、設立されたばかりということもあり、暗中模索での活動となりましたが、携わっていただいた役員の皆様や各支部のご協力もあり、おぼろげながら社会事業部の「役割」が見

えてきました。今年度は実行の年と位置づけ、新役員の皆様と共に業務に邁進していきたいと思えます。各支部や、各部署の皆様にもご協力をお願いすることも多々あるかとは思いますが、よろしく願いいたします。

就任のご挨拶

総務部 飯山支部 清野 康雄

開業して早や30年、年を取ったなアと思うこの頃です。開業前は土木作業員として、体一つで大概のことはやってきました。筋肉はかなりのものでしたが、今は見る影もなく、仕事に精いっぱい状態です。調査士は測量して登記申請して飯が食える、などと甘い考えで登録した方がいいが、そう簡単なものではありませんでした。田は耕作していたのでコメだけは何とか食べましたがそれだけでした。結局また土木畑に戻ってアルバイト生活。現場管理、丁張かけ、写真撮りなど、およそ調査士とは名ばかりのその日暮らし。(今でもあまり変わりませんが)性分が土木屋向きのアバウトなもので(土建業の皆さんすみません)。

依頼者が遠慮してしまったり、普段から自分の主張を曲げない、或いは地元の名士といわれるような人の一言で境界(所有権界)が決まっ

てしまうような、後味の悪い立会を経験すると、俺たちの仕事ってなんなんだろうと思うこともあり、その点土木のほうが気楽だと思います。ただ土木屋さんの中には杭を大事にしない業者さんが非常に多いのが残念です。つい普段思っていることを書いてしまいました。たまにこんなことも思いながら仕事をしています。

こんな私ですが、飯山支部の推薦(順番)で今回理事になってしまいました。

調査士の業務については、年数ばかりの会費会員ですので何もわかりません。

理事になったのをいい機会にこれから勉強(あまり頭に入りませんが)して会の厄介者にならないように、部長の足を引っ張らないように2年間頑張ろうと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(自称)飯山支部の異端爺。

就任のご挨拶

総務部 大町支部 鈴木 良介

大町支部より出向させていただいております、鈴木良介と申します。平成11年に開業し、様々な方たちと接し経験を積みながら土地家屋調査士として現在に至ります。趣味は、まったく上達しないゴルフとアルクマグッズ収集です。

初めての理事となりますが、本会のお役に立てるよう努めて参りますので宜しく願い申し上げます。

就任のご挨拶

業務研修部 松本支部 三原 雅

この度理事を拝命いたしました三原 雅です。松本支部の所属で事務所の所在地は安曇野市穂高です。登録年月日を調べてみたら昭和58年4月28日でしたので34年間この仕事をしていることとなります。

そろそろ、会のために働けということで選ばれたと思っております。配属は業務研修部となりました。するべき仕事は多岐にわたり、ボリュームも相当量あるようで、今までに担当さ

れた理事の皆様のご苦勞に改めて敬意を表させていただき次第です。中でも測量研修委員会は私が中心となって進めることになってしまい困惑している状況です。

浅学非才の身ではありますが、少しでも会員の皆様のお役に立てるように努力したいと思っておりますので2年間皆様のご指導と御協力をお願いいたします。

就任のご挨拶

業務研修部 松本支部 清住 利男

この度、長野県土地家屋調査士会の理事として、会務に携わることになりました。業務研修部の一員として様々な課題に取り組んで行く事になり、不慣れなため解らない事が多く不安も大きいですが、会員の皆様のお役に立てるよう、挑戦の思いで取り組んで行きたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

簡単な自己紹介ですが、私は松本市の隣、塩尻市の広丘吉田（長野道塩尻北インターに隣接、松本空港には車で5分の場所）の自宅に事務所を開設して今年で13年目を迎えました。家族は妻と小学6年の娘が1人おります。妻は自身の仕事を持っているため、私の仕事を手伝うつもりは全く無く、開業以来すべてを1人でやって来ました。仕事量も年数に伴い増加して来まし

たが、人を雇う余裕も無いので、しばらくは一人で気楽にやってみようと思っております。

先日、初めての理事会、業務研修部の部会に参加させていただきましたが、今までも先輩方が、忙しい仕事の合間を縫うように、本会の運営に尽力されて来たことに、大きな感謝と尊敬の念を抱きました。私は今回、松本支部の副支部長を兼務しているため、支部の会務や行事との両立が課題となります。時間の制約も増えますが仕事に支障無く、又他の役員の方に迷惑をかけないように、しっかりと計画を建て取り組んで行きたいと思っております。微力ではありますが、すべては会の発展と自身の成長のためと捉え頑張っております。

広報部理事就任のご挨拶

広報部 飯田支部 鎌倉 聖

この度、県の広報部担当理事を拝命いたしました、飯田支部所属の鎌倉聖でございます。（「聖」と書いて、「きよし」と読みます。学生時代からまともに読まれた事はありませんでした。）

入会は昭和59年12月ですから、かれこれ33年が過ぎましたが、現場へ行っては悩み、帰ってきては悩みの33年間だったような気がします。

前期は支部長を経験させて頂き、大変勉強に

なりました。又、今期は広報部ということではありませんが、今まで会報にもまともな原稿を投稿した事がない者が、果たしてどれほどのことが出来るのか、いささか疑問ではございますが、松永部長さんをはじめ、役員の方々の足を引っ張ることのないよう務めますので、至らぬ面はご指導、ご教授の程、宜しく願いいたします。

就任のご挨拶

社会事業部 諏訪支部 小林 信吾

第69回定時総会において諏訪支部より推薦を頂き、このたび理事として社会事業部に配属となりました。何分経験もなく不安ではありますが、精一杯務めさせて頂きたいと思えます。

私は平成2年に調査士会に入会しました。現在、諏訪支部会員35名の中では中堅といったところです。昨年まで諏訪支部長を2年間務めさ

せて頂き、大変勉強になりました。

私は根っからの“アナログ人間”であり、未だに時計は機械式、アナログレコード・カセットテープ・BCLラジオ等を使用しております。

まだまだ若いつもりではありますが、新しいことに素早く対応できないことを実感しているところです。2年間、よろしく願い致します。

就任のご挨拶

社会事業部 伊那支部 中坪 秀次

この度、理事に任命され、理事会に出席し、改めてその重責を感じております。入会してから20年余が経ち、自分の仕事ばかりで来ましたが、諸先輩が調査士会のため、その献身的な情熱は、ただただ敬服するばかりです。

仕事に関しては未だに先輩に相談することも

あり、悩める日々が続いておりますが、子供たちも手が離れ、女房と2人で暮らしています。その時々で興味のある事に没頭するばかりで、人より秀でる趣味も現在はありませんが、いつかは【しまなみ街道】をロードサイクリングしたいと。計画中ですが、いつになることやら…。

法務大臣表彰受賞報告

第74回日本土地家屋調査士会連合会総会において、芦澤文博長野会名誉会長が受賞されました。受賞者は20名で、50音順により芦澤名誉会長が最初に登壇し盛山正仁法務副大臣より表彰状が手渡されました。おめでとうございます。



東京法務局長表彰を受賞して

長野支部 寺島 範 昭

この度、第69回長野県土地家屋調査士会定時総会の式典に於いて東京法務局長表彰を受賞いたしました。ご推薦いただいた本会ならびにこれまでご指導賜った諸先輩方、支部や本会の役員時代に支えていただいた会員各位にあらためて感謝申し上げます。

私は学生時代の長期休暇で帰省した折、従兄弟でもある小池憲造先生の元で測量のアルバイトをしたことがきっかけで、世の中にはこんな仕事もあるんだと知りました。学生時代に行政書士の資格をとり、昭和55年卒業と同時に小池事務所の補助者として修業を始めました。今日の自分が在るのも、この御陰です。翌年に調査士試験に合格し昭和60年に開業しました。受賞を機にあらためて振り返ってみたら、この業界に関わり36年、調査士になってから32年の歳月が経っていました。長く在籍していた割に自身の技術や能力は向上せず、お恥ずかしい限りです。

そんな私でしたから、自分のことだけ考えて、暖気に仕事ができる背景など微塵も感じることなく過ごしていました。20年程前に、はじめて支部の役を仰せつかった際、裏では諸先輩方が「制度の発展や法務行政の運営」に身を削って

活動されてきた御陰で自分は安穩として仕事できていたという事を知り、恩返しのつもりで役を受けました。その後は微力ながら会に関わり続け、尽力してきたつもりです。「自分が食べていられればいいや」から「調査士全体がもっと世間に認知され信頼されるにはどうすれば良いか、調査士の将来のために今何をしなければならぬか」と考えるようになり、会務に邁進してまいりました。諸般の事情から支部長を2期努めさせていただきましたが、様々な事業をなかば強引に推し進めるなど、当時の支部理事さんや支部会員さんに多大な迷惑をかけたこともあったかと思えます。賛同し協力してくれた仲間が支えてくれた御陰で今に繋がっていると思えます。

この機会に後進の方々にお願いします。誰もがそれなりにできることがあります。自分たちの将来のために積極的に会務に関わってください。『調査士』という看板を見栄え良くすることを人任せでは、任された人は大変です。「任された以上はガンバロウ」という気概のある人にとっては、もっと負担が増えます。「全体のため」は、ひいては自身のためになることです。

同じ『調査士』の一員なのでありますから。公平に分担し関わってゆきましょう。我々調査士は一国一城の主であり、仕事を取り合うライバルであるかもしれませんが、外から見れば、皆同じ『調査士』でしかありません。一致団結して向上していかなければ『調査士』という評判は良くなりません。「自分さえ良くなれば」という感覚では、結果に結びつけ維持して行くのは大変です。『調査士』全体の認知度・信頼性を上げることが、結局、自身の仕事の確保・拡大への近道となり、そのための苦労も少なく済むものです。長年仕事をしてきた中で自分なりに苦労もしてきましたし、会務に関わるようになって、個人でなく『調査士会』の大看板を背負って外部と折衝する場で実感した事も多くあります。『調査士』を効果的にアピールし仕事をし易くしていくためには、一人一人がどう考え行動しなければならぬか、この場を借りて、この機会にぜひ伝えたいと思いました。偉そうなことを言って恐縮ですが、受賞のお祝いとお

許してください。

ところで、私が開業した頃に比べると、我々資格者を取り巻く環境・情勢は大きく変わりました。私自身の家庭の事情もあり、まだまだこの資格で稼ぎ生活していかなければなりません。今後も一層自己研鑽に励み、役員の方々の足を引っ張らないよう協力し、陰ながら会に貢献していく所存です。

この度は、ありがとうございました。



東京法務局長表彰を受賞して

上田支部 蓑輪晴夫

この度、東京法務局長表彰を賜りまして身に余る光栄に感じております。誠にありがとうございました。

漫然と業務をこなしている間に表彰していただけるような年月を経てしまったことに戸惑いながら受賞させていただきましたが、とても思い出に残る受賞式でした。

私が試験に合格した当時、長野地方法務局は現在の庁舎ではなく道路を挟んだ筋向いにあり、そこで合格証書の授与式が行われたことを思い出します。また土地家屋調査士会館も無く、後に現在の会館を建設するに際しては当時の本会役員の方々の皆様を中心にかなりのご苦労があったことも記憶しています。若い会員の皆さんは驚かれるかもしれませんが申請書はB5縦書き右綴じで土曜日の午前も開庁していた時代のことです。

今日まで長きに渡り業務に携われたこと、そ

して表彰されたことは土地家屋調査士会、法務局の皆様のご多大なるご指導によるものとして感謝申し上げます。

この受賞を励みに業務に従事致しますので今後も宜しくお願い致します。



東京法務局長表彰を受賞して

伊那支部 中塚 憲

NHKの大河ドラマ、今年は「おんな城主直虎」ですが、総会のご来賓であった日本土地家屋調査士会連合会の林千年前会長の地元岐阜県に、もう一人の女城主の城があります。恵那市の「岩村城」といって、天守や櫓は残っていませんが、それは見事な野面積みが往時を偲ばせる山城跡でした。

他県に出かけるまでもなく、長野県内には国宝松本城はじめ、「直虎」の前の大河ドラマ「真田丸」、真田一族の根拠地だった上田城跡や松代城跡、小諸城址懐古園、日本三大浮城の高島城など、素晴らしい石積が残っています。

ことほど左様に、私は日本の石垣、石積というものが大好きです。現代のような建設機械がない時代に、人が自らの体や、様々な道具を駆使して、一つ一つ石を運び積み上げ、時間と労力をかけて築いた、何万トンにもなる天守閣をいただく基礎…擁壁や護岸も大いに魅力を感じますが、殊に城跡の、自然石を加工せず積んだ野面積みなどは大好物です。日調連理事を務めた頃通った東京でも、江戸城のそこ彼処に残る石積を眺めては目を細めておりました。

さて、図らずも先日、東京法務局長表彰を受賞いたしました。私のような者がこのような表彰を受けるなど、式典の謝辞の中でも述べましたが、これは一重に、法務局長をはじめとした長野地方法務局の方々、土地家屋調査士の先輩や後輩の皆様、そして私たち土地家屋調査士に業務を依頼される官公署や一般の方々の、ご指導、叱咤、激励の賜物と深く感謝申し上げます。

今回、たまたま私が賞状を受取りましたが、これは連綿と不動産登記制度と土地家屋調査士制度を支えてきた先輩方の存在、現在業務に精励する同輩、後輩の日々の努力があったればこ

その事であり、その意味で、表彰は私たち土地家屋調査士全員が受けたものと感じております。

昨年の熊本地震は、甚大な被害をもたらしました。多くの犠牲は痛恨と哀悼の念、いまだ尽きないものがあります。熊本の象徴「熊本城」も被災を免れることはできませんでしたが、その中であって、「飯田丸五階櫓」は、土台の石垣が崩壊したものの、辛うじて残った角の石積部分、隅石に支えられ、倒壊を免れました。この400年前に積まれた隅石部分は、市民に「奇跡の一本石垣」と呼ばれていますことは、ご承知のとおりです。

砂上楼阁という言葉のとおり、どんな壮麗なまた巨大な城郭も、砂の上には建てることはできません。石積という基礎があってこそ、成り立つものであります。日ごろの私たち土地家屋調査士の業務が、平常時は無論のこと、災害時でもこの隅石のように社会を支える基礎となることを願って、これからも微力ながら、石積の石を積み上げるように、一つ一つの業務や会務に励んでまいりたいと思います。

受賞に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも一層のご指導ご鞭撻をお願いいたします。



連合会長表彰を受賞して

松本支部 一ノ瀬 周 司

本年度第69回定時総会におきまして、ご臨席いただきました林千年日調連会長より直々に日本土地家屋調査士会連合会長表彰の栄誉を賜りましたこと誠にうれしく思います。これも偏にご指導いただいた会員、調査士会、事務局、法務局職員の皆様のご指導のお蔭と心より感謝申し上げます。次第です。

本会の主立った役職も務めずの受賞は大変申し訳ないのですが、パソコンの黎明期から一兵卒としてのIT委員やオンライン登記申請委員としてパワフルな歴代役員の皆様の横で会務に携わることができたことは、とても良い刺激になりエネルギーをいただき私にとっては貴重な体験でした。

昭和53年入会は結婚と同時でした。式を済ませ入会手続きをしたところ支部長に「順番が逆だよ、ご祝儀が出たのに・・・」と言われたのが

つい先日のことのように思い出されます。翌年生まれた長男も今年で38歳、家族の歴史がそのまま調査士業の歴史になっています。

今回の表彰を機に初心に戻り、老いと戦いはパソコンを友として一層努力したいと思っておりますのでこれからもよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。



連合会長表彰を受賞して

大町支部 菅 澤 徹 夫

平成29年5月26日、第69回長野県土地家屋調査士会定時総会において日本土地家屋調査士会連合会長表彰を受賞させて頂きました。

これもひとえに、土地家屋調査士会はじめ、法務局、会員の皆様のご指導の賜と心より深く感謝申し上げます。

昭和56年に土地家屋調査士登録を受けてから、気がつくと36年と言う時間が過ぎました。あっという間の36年だったと思います。

この間、公嘱協会理事を含めると20年にわた

り、調査士会の何らかの役員として皆様方と一緒に会の運営に微力ではありますがお手伝いをさせて頂けたことは、とても光栄であります。特に境界鑑定委員会での、土地境界基本実務の手引きの作成とか、筆界特定委員として、筆界特定手続き業務に携わったこと、本会での理事時代に測量研修マニュアルの作成に参加出来たことなどは、特に思い出として強く残っております。また最後の副会長時代に長野県神城地震の対応により、心配事相談会等に何度も参加出

来たことも、貴重な体験でした。

今後は、フロアーの一会員として、本会及び調査士が発展するように微力ではありますが、努力を尽くす決意であります。どうぞ今後とも変わらぬご指導をお願いいたしまして、感謝の気持ちをこめて御礼と致します。



日本土地家屋調査士会連合会長感謝状を受賞して

上田支部 西澤 眞

比の度、平成29年5月26日付を以って日本土地家屋調査士会連合会長、林千年殿より、長年にわたって土地家屋調査士業務に精励した故を以って、栄えある感謝状の授与がありました。誠に恐縮の一語に尽きます。

さて、私こと、顧みますれば、昭和26年、当時の制度上、測量士の故をもって、無試験にて、土地家屋調査士の登録をした、駄目な調査士でありましたが、地元支部の推薦あって、昭和44年4月、上田支部副支部長就任以来、昭和60年5月副会長退任、参与を昭和60年5月25日より、平成13年5月25日迄、若くして出た関係上、只々長いこと役職の席を穢したに過ぎず、連合会長

の感謝状文にある後進の指導育成に尽くされた功績は、誠に顕著であります云々といわれると、尚もって汗顔の至りであり会員皆様に多大な御迷惑のかけ通しであった事を、今更ながら深く御詫び申し上げる次第であります。

今後と申し上げても、もう残された調査士家業も残り少なくなりましたが、生ある限り頑張りたい所存でありますので、よろしく申し上げ感謝状の御礼といたします。

終わりにになりましたが、日調連並びに、長野県土地家屋調査士会並びに会員皆様の、益々の御発展、御多幸を祈念申し上げ、私の拙い文章の筆を置きます。

長野地方法務局長表彰を受賞して

諏訪支部 小林 正二

気が付けば、平成4年に入会してから25年。

この度、長野地方法務局長表彰をいただき、大変光栄に思っております。土地家屋調査士として、確かに多年この業務に従事してきました

が、法務行政に寄与したなどという自覚は毛頭なく、日々の業務に追われるまま重ねた年月。何とかやってこられたのは土地家屋調査士仲間の皆さんを始め、周囲の力添えのおかげと、

感謝の気持ちでいっぱいです。

バブルがはじけ、景気が悪い方へ向かっていた時期、15年間勤めた役場を辞めての開業。周囲からは「公務員を辞めるなんて」「バカだ、もったいない」とよく言われました。当然、開業当初は仕事も少なく、先行き、生活に不安もありました。一方、自由になる時間はふんだんにあり、まだ小さかった子ども達と野や山で遊びまわりました。共働きで忙しい毎日の中、子育てをしている子どもとその子(孫)達を見ていると、自分にとっても子ども達にとってもかけがえのない贅沢な時間だったのだと、改めて実感するこの頃です。

還暦を目前にした今、仕事量も年々減少していく中、今度は孫と過ごすという新たな楽しみが加わりました。仕事熱心とはとても言えない

土地家屋調査士ですが、趣味の時間も大事にしつつ、もうしばらく、こつこつと日々の業務に取り組んでいきたいと思っています。これからもよろしくお願いいたします。



長野県土地家屋調査士会会長表彰を受賞して

長野支部 宮崎 功志

IT委員会委員として「調査士会会長賞」を受賞しました。

調査士会の皆様ありがとうございました。

楽しく委員会をやらせてもらい、「調査士会会長賞」まで頂いてしまいました。

インターネットがある程度普及し、メール、ホームページが一般的になり始めていた頃、土地家屋調査士会においてもホームページを立ち上げ、会員全員にメールアドレスを提供し、必要な連絡はメールで行い、それらの管理運営を行うためIT委員会が発足しました。

少しネットやホームページの知識があって、メールの設定ができました。

ネットの構築は、佐藤 昭 委員長が行いました。

ホームページの設定や管理は、一ノ瀬周司委員が行い、私は、単にそこにいただけでした。

事務所が調査士会館に近いので、ホームページ記事掲載や連絡事項の掲載を担当して

いました。

オンラインでは、距離的に近い遠いは無関係なのですが、FTTPで掲載しても、現在のように光ケーブルによる常時ネット接続環境ではなく、電話回線による接続であり、とにかく遅いものでした。

そんな状況では、掲載するものを直接、調査士会館でFTTPにより掲載した方が効率的でした。

メールの設定が分からない方に設定のお手伝い、テストメールの発信受信を行いました。

数年で、全ての会員がメールによる連絡を行うことができるようになりました。

現在のようにブログ形式のホームページも運用することができるようになり、IT委員会の目的が達成されたことにより、解散しました。

佐藤昭委員長、一ノ瀬周司委員、本当にありがとうございました。

長野県土地家屋調査士会会長表彰を受賞して

松本支部 荒井伸介

第69回定時総会において、長野県土地家屋調査士会会長表彰を賜り大変光栄に思います。

平成11年の土地家屋調査士試験に合格して、平成13年に入会しました。合格した年に長女が生まれ、子育てを妻に任せた状態で、父と姉に手伝ってもらいながら業務をスタート致しました。

十分な経験もない中で悪戦苦闘しながら業務を行ってきましたが、早いもので16年の歳月が過ぎました。お蔭さまで、体調を崩すこともなく、社員にも恵まれ業務が行えております。これまでに多くの方々との出会いを通して、調査士業務を続けさせて頂いたことは、本当に感謝しております。

今年は、年齢も50歳という節目の年となります。今迄のように、無理が効かなくなってきました。今回、頂いた賞を励みに土地家屋調査士業務を通して、今後も調査士会および地域の方々への貢献が出来ればと考えております。



日調連第74回定時総会 報告

総務部理事 鈴木良介

平成29年6月20日・21日、東京都文京区東京ドームホテルにおいて、日本土地家屋調査士会連合会第74回定時総会が開催され、オブザーバーとして参加させていただきました。総会には、役員をはじめ総会構成員等約400名が出席し盛大に開催されました。

6月20日正午より、総会に先立ち法務大臣表彰授与式が催され、長野会より芦澤文博先生が森山法務副大臣より表彰授与されたことをご報告致します。

次に議長が選出され、平成28年度会務報告を日調連会長・副会長よりされた後議事に入り、

議案として第1号議案（イ）平成28年度一般会計収入支出決算報告承認の件・（ロ）平成28年度特別会計収入支出決算報告承認の件が上程され説明がされた後、監事の監査報告・総評が行われました。質疑応答の後、原案のとおり承認されました。

第2号議案は役員等選任の件であり、会長及び副会長の選任においては、選挙管理委員会の運営の下、公正かつ厳正に定時総会構成員による投票選挙が行われ後、この日の議事は一旦中絶となりました。

夕刻の懇親会には、定時総会出席者のほか、

ご来賓として各政党の政治家の出席を賜り、金田法務大臣の挨拶時には、会場の興奮も一気に高まり盛大に開催されました。又懇親・交流を深める場となり貴重な時間だったと感じています。

翌日6月21日午前より議事が再開され、第3号議案平成29年度事業計画（案）審議の件及び第4号議案（イ）平成29年度一般会計収入支出予算（案）審議の件・（ロ）平成29年度特別会計収入支出予算（案）審議の件が一括上程され説明が行われました。質疑応答の後、議場に諮ったところ両案ともに原案のとおり承認されました。

第2号議案について再開し、昨日の投票結果が選挙管理委員長より報告され、会長・副会長・理事及び監事が選任されました。岡田新会長の

挨拶をはじめ、新執行部のお披露目となりました。会場は盛大な拍手に包まれ本定時総会は閉会しました。

先にも述べさせていただきましたが、この定時総会は大変貴重な時間となり、研鑽力を高める場となりました。2日間に渡り長野会松本会長をはじめ、副会長及び理事各位には、多大なるご意見と優しさをいただき誠に感謝申し上げます。

私は長野会にとって何ができるかと思案するばかりですが、まずは一生懸命を第一と考え活動して参ります。結びに、長野県土地家屋調査士会の益々の発展と、会員皆様のご健康とご多幸を祈念し、私からの報告とさせていただきます。

平成29年度長野県土地家屋調査士会 親睦ゴルフ大会に参加して

松本支部 筒井 賢一

平成29年5月27日安曇野市のあずみ野ントリークラブにおいて長野県土地家屋調査士会親睦ゴルフ大会が開催されました。

前日は大町温泉郷の立山プリンスホテルにおいて県の総会が挙行政、夜はすばらしい料理と温泉で日頃の疲れを癒し、翌日のゴルフに備えてお酒も程々に早めに就寝したかいもあって、当日の朝は6時前には起きて同室の田中芳典君と近くの練習場へ足を運びしっかり調整できました。

ゴルフ場は天気もよく「準備万端」の私は朝から絶好調で、同組の飯田支部讃岐さん、諏訪支部田中さん、長野支部北條さんと和気あいあいと快調にホールを消化しました。お昼も生ビール2杯程で我慢して午後もそのままいい感

じで楽しくホールアウトすることが出来ました。目標としていた70台には一步届きませんでした。私なりに満足のいくスコアであることが出来ました。

表彰式が始まりなかなか呼ばれないのでおかしいなあと思っていたら最後の最後で名前を呼ばれ、まさかの「優勝」を手にすることができました。

優勝トロフィーは自宅リビングに飾り毎日家族に自慢しております。来年も是非とも持ち帰ることが出来るように日々精進したいと思います。

最後に色々ご手配下さった大町支部の皆様、一緒にプレーして下さった同組の皆様、そして何より多大なるご寄付を下さった松本支部の皆様本当にありがとうございました。

支部だより

平成29年度長野支部活動について

長野支部長 関 谷 秀 明

平成29年度長野支部活動予定につきましては、役員改選後に開かれた支部会議議事録より一部抜粋、会報用に修正しました。原則として前年度を踏襲しています。

I. 平成29年度長野支部活動予定

i. 相談会

総務省が行う一日行政相談会

法務局主催の休日相談会

本会の無料相談会

長野支部無料相談会6回を予定

ii. 長野市役所監理課様との協議会

(名称：境界問題連絡協議会)

2月に意見交換会

(導入部分30分、言いたい放題)

長野市役所資産税課様との協議会

iii. 本会のキッズサイエンス参加への協力

今年は8/5(土)、8/6(日)と2日間にわたり信大教育学部にて開催。

iv. 研修会

9月21日(木)合同研修会(合同とは長野地区との合同をいいます。以下同様)

会 場：メトロポリタン長野

研修内容：心理系の研修

講 師：放送大学客員教授

金高茂昭先生(臨床心理士)

公開研修会とします。

平成30年2月2日(金)

合同研修会、新年会 犀北館

研修内容

例年は、本会からの伝達研修

平成30年4月27日(金)

研修会・定時総会 犀北館

研修内容未定

v. 合同旅行

今年は長野地区が主となります。

10月13日(金)、14日(土)合同旅行

vi. 5士業連絡協議会(行政書士、社会保険労務士、税理士、司法書士、土地家屋調査士)

vii. 長野市道等掘削調整会議年2回

viii. 長野市空家等対策計画策定協議会

ix. 緊急連絡網の改訂緊急連絡訓練の実施

II. 本日までの主な支部活動

5/28(日) 金高先生と合同研修会の打ち合わせ(諏訪市)

6/5(月) 第2回長野支部役員会

6/8(木) 長野市役所監理課様からの問い合わせによる相談業務(2名で対応)

6/16(金) 平成29年度第1回空き家対策長野地域連絡会(長野合同庁舎にて)

6/22(木) 境界問題連絡協議会

6/26(月) 支部無料相談会来場者4名(受付兼相談者1名、相談者2名の3名で対応)

6/28(水) 長野市役所資産税課様との協議会

航空写真は3年に1回撮影するそうです。犀川以南-犀川以北-撮影なしを1年ごとに行います。今年は4月から5月にかけて5日程で犀川以南を撮影したそうです。課税のための写真なので我々は見ることができません。

以上、盛りだくさんの内容となっています。

Ⅲ. その他

9月21日（木）の合同研修会には時間がありません。心理学の一般的事項および境界立会にお呼びした出席者に対する心理臨床の知見からみた内容が語られるのではないかと思います。演題等決定後何らかの

方法で案内を出しますので興味のある方は参加をお願いします。

長野地方法務局による14条地図作成業務が長野市吉田で行われています。現在7月からの一筆地立会に向けて各班事前調査が終わった頃です。

集団和解による地図訂正業務に参加して

飯山支部 西澤剛彦

中野市の地図混乱地域において昨年より続いていた集団和解方式による地図訂正業務が5月に無事に登記完了となり一段落つききました。現在その成果を国土調査法第19条5項指定として国土交通省に申請中であり、14条1項地図として備え付けられる見込みです。

「国土調査法第19条第5項」とはあまり耳馴染みのない条文でしたが、国土調査以外の測量、調査の成果が、国土交通大臣又は事業所管大臣は国土調査と同等以上の精度、正確さを有すると認めた場合に国土調査の成果と同一の効果があるものとして指定することができ、指定されると法務局に正式な地図として備え付けられる、これを19条5項指定というようです。事業の主体は地方公共団体、民間事業者とされており、今回は中野市が事業主体となっています。

私はその地図整備業務に地元調査士のひとりとして参加させていただきました。

参加するとは言ったものの諸先輩方に迷惑をかけてしまうのではないかと不安でしたが、右も左も分からない初めての業務であったため自分自身のスキルアップに繋がればという思いがあったことを今でも覚えています。想像はしていましたが通常の依頼される業務とは異なり普

段慣れない作業が多いと感じました。

作業の内容と致しましてGPSによる2.3級基準点測量、4級基準点設置等の業務から参加させていただき、その後点の記作成など。点の記は後々残るものなので私が作成したもので良いのかと恐縮してしまい恥ずかしい限りです。

今回の現場は地図混乱とはいえ現地の占有形態が安定しており、各地権者からのご協力を得て境界確認等立会を行うことにより、スムーズに着々と業務を進められましたが、調査士になったからには避けられない連日の猛暑の中の作業でしたので暑さとの戦いには体力を奪われました。

境界を測量した後、各地権者の登記の代理手続き（合筆や地積更正登記など）は数が多いため各自振り分けて分担しましたが、法務局の方も一度に申請が来ても業務に支障をきたすことから順番に申請を行い、また、各自に振り分けたとしてもまだ登記申請は数が多いことから必要書類が膨大になるため、自分自身混乱しないよう細心の注意が必要になります。かなり神経を費やしたのではないのでしょうか。諸先輩方の協力なくしてはできない業務だと痛感しております。今現在は一息ついて落ち着いていますが、

今思うと焦りながら行っていた経験は後に活かされてくると考えております。

今回の現場のように公図が混乱している地域は他にも多々あるようです。このような地域では原始筆界を探る通常業務や国土調査の手法は

なじまず、その解消のためには19条5項指定を活用した地図整備事業が有効であると思われ、今回学んだことを生かし今後につなげたいと思っています。



1. 中野市4級基準点



2. 各境界点

千曲川と橋

上田支部 蓑輪雄司

小諸市では、島崎藤村の「千曲川旅情のうた、小諸なる古城のほとり・・・」や中野市(旧豊田村)周辺を高野辰之が「朧月夜、故郷」を歌にしている。信濃川と呼ばれているのは新潟県域のみで長野県にさかのぼると千曲川と呼ばれ県民に親しまれている川である。

全長367kmの内、山梨県、埼玉県、長野県の県境に位置する甲武信ヶ岳の長野県側斜面(南佐久郡川上村)を源流としている。子供の頃、源流を訪れ、水が大変冷たかったことを記憶している。八ヶ岳から佐久平、上田盆地、そして善光寺平へと流れるこの川である。上田城の崖下まで千曲川が流れていたことは、昨年大河ドラマ「真田丸」で多くの方に知ってもらうことができた。明治21年に直江津から上田まで鉄道が敷設され、千曲川堤防が築造され、今の上田駅周辺が陸地になり街ができたと記録されている。古くからこの川は右岸と左岸を分断していたが、お城のある市街地側から城下地区にかかる上田橋が架かったのは明治23年 木造3連のケーソンガータープレート方式の橋により行き来が自由となった。更に、大正14年には二代目の上田橋、昭和45年には現在の上田橋が完成した。市内にもう一つ古くからある橋で、大屋駅から丸子、諏訪方面に向かう大屋橋がある。江戸時代から計画されていたと記録されていた。

明治26年、初代の大屋橋が完成。土台にいたるまですべて木の橋であったようだ。

二代目の大屋橋は土台が煉瓦の木橋5連ガータープレート方式であった。昭和4年には三代目の橋、昭和48年に現在の大屋橋が完成した。上田地域が蚕都で栄えた明治、大正、昭和はこの2本の橋が人の行き来、荷車、車の往来によ

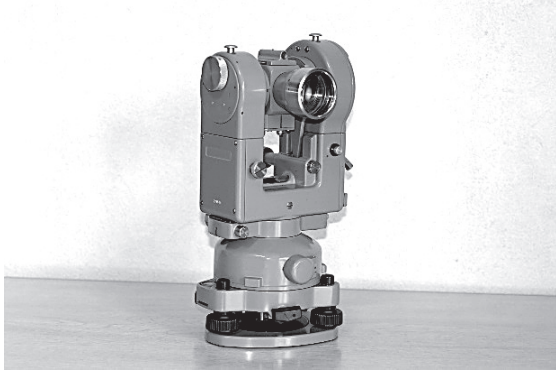
て上田は繁栄した。高度成長期の上田市長選挙では、候補者は必ず「千曲川にもう一本の橋を架ける」と公約し、市民はそれを期待していたと先輩から聞いた。その後、昭和49年に古舟橋、昭和60年に小牧橋、平成11年に常田新橋、平成12年に上田大橋、平成16年に大石橋が架かり7本の橋により右岸と左岸が結ばれている。利根川では次の橋は何kmも先にあるのだが、大河千曲川にはずいぶん多くの橋が架かっていることに感謝する。塩田平の温泉や集落と市街地を結ぶ上田電鉄千曲川橋梁 旧上田温泉電気軌道は、大正13年に当時の青木線、川西線(現別所線)を上田駅に乗り入れるために鉄橋が架かった。この赤い鉄橋は、映画やドラマに度々登場する橋である。そして、平成8年に北陸新幹線第二千曲川橋梁 PC2径間連続斜張橋は、鉄道ファンばかりでなく多くの写真や映像撮りの人が訪れている橋である。千曲川は地勢的には上田の市街地を分断しているように見えるが、「川がなければいいな」「もっと橋が架かれば便利になるぞ」と言った時もあるが、市街地のど真ん中にこんなに大きな緑地が残っていることは千曲川のおかげである。千曲川に感謝する。



私の骨董品

諏訪支部 平出高博

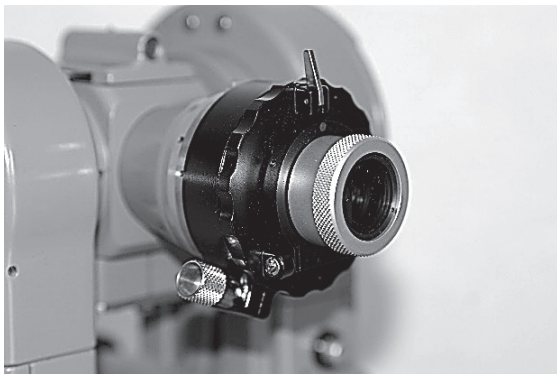
WLIDT2 (1級経緯儀)
三等・四等 三角測量に使用 1秒読み
対物口径40mm
生産期間 昭和元年～平成8年



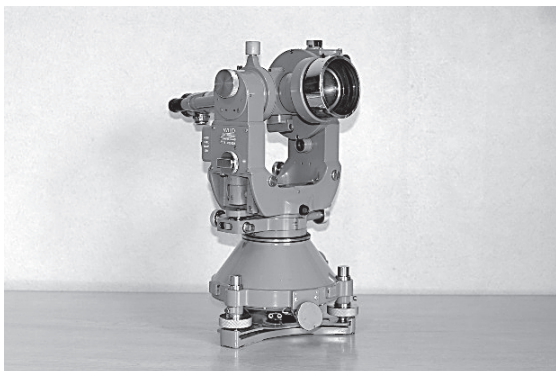
ルーロフ式太陽プリズム
太陽の中心を直接観測できる
WILDT2の対物レンズに取付ける



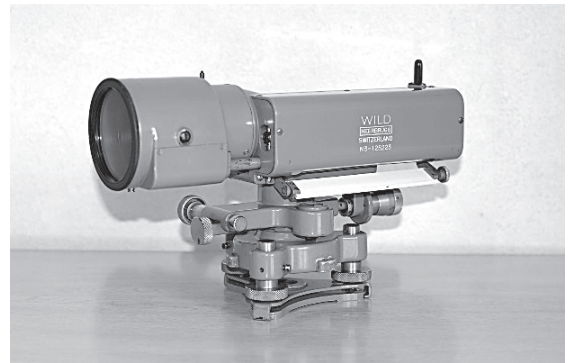
望遠鏡視野



WILDT3 (特級経緯儀)
一等・二等 三角測量に使用
0.2秒読み 重量約11Kg
対物口径60mm
生産期間 昭和2年～昭和59年



WILDN3 (1級水準儀)
一等水準測量に使用 0.1mm読み
対物口径60mm
生産期間 昭和元年～平成7年



WILDサブテンスバー (バーの長さ2m)
インバール鋼製
間接距離測定に使用
バーの両端を挟む水平角 α を測定
距離は $S = \cot(\alpha/2)$ にて求められる。



WILD (ウィルド: 現ライカ) が素晴らしいのは、昭和初期 (1925年頃) に0.2秒読み、0.1mm読みの器械を、世に送り出したことにある。日本製1秒読み器械の実力は、残念ながら現在でも2～3秒のようである。

飯田支部の現状報告

飯田支部 石川和弘

幾度となく回避し続けた会報の原稿依頼が支部長命令であり、とうとう断り切れず投稿いたします。

題名が支部の動き、支部紹介ということで、開業から20年を過ぎた私が思う飯田支部の今と昔を報告します。

私が入会した平成9年は、支部会員数38名でした。会員は皆相互に連携し、新人の私に優しい会だったと記憶しております。

当時の支部活動で印象に残っているのは、飯田市内を中心とした基準点の設置を、支部単独の研修として行っていたことです。飯田地区は、国土調査の図面が法務局指定の地図に指定されており、基準点を必須として業務を行っていたので大変助かりました。

また、県の研修会や総会などは、支部がバスの手配をして参加するスタイルでしたので、県下でも出席率が良い支部だったと記憶しております。

あれから20年・・・

現在の会員数は29名で、ピーク時は40名を超えていましたから随分減ってしまいました。平成21年以降入会者はなく、その前の入会者が平成16年です。現在一番若い会員が42歳で、支部会員の平均年齢は年々上昇しております。今年も入会者の気配はなく、支部の今後を考えるととても心細く思います。

ただ会員同士の連携は今も健全で、市内に配置した基準点の数は、私が入会した当時は20数点ほどでしたが、現在は80点余りと着実に増えております。

研修会や総会への参加者は年々減少しており、バス手配で参加していた当時が懐かしく思われます。

現在の市内の経済状況は、三遠南信自動車道やリニア中央新幹線事業に関連した公共事業の発注が、増加傾向にありますが、会員の減少と高齢化が著しい飯田支部が、地域に根差した社会貢献できるのかとても不安で心配しています。

20代30代の若い世代による活気ある飯田支部になることを願いつつ報告といたします。

日調連研究所研究報告会に参加して

業務研修部長 平井克尚

さる平成29年3月16日、17日に東京の連合会館で行われた研究所研究報告会へ聴講に行ってきました。

全国から65名の参加者でしたが、長野会からは松永宏樹理事と連合会広報部の久保智則会員と私の3名の出席でした。

この研究所報告会は2年前の初回に続き、今回は平成27～28年度の報告会として2回目になるそうです。1日目は13時の開会となり菅原副会長の挨拶と小野研究所長の趣旨説明がありました。大会議室はほぼ満席で、机に用意された報告会の資料は184ページにもおよぶ分厚い冊子で緊張感のただよう空気の中で、明治大学法

学部専任教授の新美育文氏の「権利客体としての土地」と題した基調講演から始まりました。

土地の区分はなぜ必要か？から始まり現実の支配と観念的な客体範囲（筆界）との齟齬をどう扱うか、について民法、債権法からの視点でのご講義でした。

基調講演の後、いよいよ研究委員からの報告となりました。

5部門に分けられたテーマをそれぞれ各3名の研究員が担当し、研究した報告を2日に分けて発表する形式でした。研究部門テーマ、研究発表は以下のとおりです。

<第1日目>

第2部門テーマ 「最新技術に関する研究」

- ・「オープンな基準点維持管理」 研究員 高島 和宏
- ・「QZSSを利用した衛星測位と土地家屋調査士における測位制度のあり方について」
研究員 今瀬 勉
- ・「SfM・MVSの利用及び派生效果の活用について」 研究員 西村 右文

第3部門テーマ「筆界立会いの代理権・立会要請権・筆界調査権・筆界認証権に関する研究」

1. 社会的事情からの考察 研究員 宮嶋 泰
2. 実務的な視点からの考察 研究員 江口 滋
3. 法律的な見地からの考察 研究員 田中 淳子(愛知学院大学法科大学院教授)

<第2日目>

第4部門テーマ 「空家対策法に対する問題点に関する研究」

研究員 若園知明・石井幸世・吉原祥子 (東京財団研究員)

第5部門テーマ 「諸外国の地籍制度に関する研究」

- ・「カンボジアの不動産の制度（土地・建物・区分建物について）」 研究員 山田 明弘
- ・「台湾の地籍制度に関する研究」(第1部「台湾地政の現状」) 研究員 戸田 和章
- 共同発表 (第2部「台湾地政の発展方向」) 元研究員 藤原 豪紀
- ・「南アジアの地籍制度と土地行政の比較研究」 研究員 月原 敏博
(福井大学国際地域学部教授)

第6部門テーマ 「地籍管理に関する国際標準化についての研究」

- ・「諸外国におけるLADM準拠土地管理システム」
- ・「Cadastreという定義とは？」

研究員 山中 匠
研究員 藤木 政和

以上のとおり、盛り沢山な研究ですが、一人20分の持ち時間という制限なので発表内容は研究のアウトライン程度となり、興味のある場合はその論文を取り寄せて読んで下さい、というのがこの研究報告会の趣旨だそうです。したがって今回聴講しただけでは研究内容の理解は大変難しく、従ってこの場でのそれぞれの研究内容についての報告は割愛させて頂きたいと思えます。

しかし、各発表者が時間一杯まで発表したその研究に対する熱意は十分に聞き手に伝わり、もっと聴きたいという気持ちになりました。土地家屋調査士の業務に直接関係する内容だけではなく、地籍学としての広義的な内容の研究報告でした。中には会員研修会へ講師としてお呼びしたいと思う講師先生もおられました。

今回は第2回目の報告会でしたが、日調連研究所はずっと以前より存在しているはずで、いままで自分が興味・関心のなかったことが非常に悔やまれました。連合会ホームページには「平

成25・26年度研究所研究テーマ報告とりまとめ」について載っていることをやっと知りました。今回の報告会についても既にホームページへUPされておりますので、興味のある方はご覧いただきたいと思えます。

報告会は次回も開催されるでしょうが、できればもっと広い会場で多くの全国の会員が参加できる研究報告会にしていきたいと思います。ホームページで資料を読むことはできませんが、やはり直接講師の先生から生の説明を聴くことには代えられないと思えます。

第1日目終了後は希望者による懇親会にも参加しました。普段、お話しをすることもできない日調連理事の方や全国の参加者の方といろいろな情報交換ができたことも大変有意義でした。

我々土地家屋調査士が国家資格者として、今後社会に対してどういう位置づけで、どんな活動・貢献ができるか、ということを考えさせられた研究所報告会でした。



新入会員 自己紹介

Q. 1
前職は？

Q. 3
今夢中になっていることは？

Q. 2
調査士を目指したきっかけは？

Q. 4
今後の意気込みは？

長野支部 梨 本 豊 水

皆さんはじめまして、今年の3月に土地家屋調査士会に入会しました梨本豊水と申します。

名前はトヨミと読みます、果物の梨に豊水という品種がありますが、このことについてよく言われます。残念ながら実家はブドウを作っています。

私が今夢中になっているものは、水彩画です、空のスペースを十分にとった風景画を書くのが好きです。もうひとつはスキーです、急斜面のギャップが大好きです、ターンした瞬間地面から身体が浮く瞬間がたまりません。でも、去年の暮れに転倒し肩を負傷したため、今年はお休みです。

私は、平成元年に測量会社を辞め、最初は妻と製図の仕事を中心にやっていましたが、次第にCAD化が進み、仕事が無くなり、以前の様に測量の仕事をする事となりました。

しかし、元に戻って測量の仕事そのまま続けることを疑問に思い、その仕事を生かしつつ、個人で出来る仕事がしたい、また、何かに挑戦し、悔いのない人生を送りたいという気持ちから、土地家屋調査士になろうと決心しましたが、10年間苦勞が報われませんでした。

でも、継続は力なりです、やっと遅咲きの桜が咲いた次第です。

これからは、調査士として品位を保持し、世の中に貢献し、税金をたくさん納められるよう頑張ります。

先生方、ご指導の程、宜しくお願い致します。

長野支部 丸山進悟

皆様、はじめまして。平成29年4月3日付けで長野県土地家屋調査士会に入会しました丸山進悟と申します。

5月の定時総会では、幸運にも調査士会役員の先生方と同部屋になり貴重なアドバイスをいただくことができました。誠にありがとうございました。

今後も積極的に研修会等に参加し、多くの先輩方とお話できたら嬉しいです。

私は、現在も測量会社に勤務しています。今年12月の担当業務終了をもって退社し、土地家屋調査士として業務を行っていきます。登記実務の経験がなく業務に対する不安があるため、eラーニングによる研修と入会時にいただいた資料を読み、準備を進めております。

一日も早く、専門的な知識と技術を身につけ、信頼される土地家屋調査士となれるように精進して参ります。皆様ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

長野支部 高野哲浩

1 前職というか、現在司法書士をしています。

2 父高野泰治も土地家屋調査士で、皆様には大変お世話になっております。父も大分高齢になってきたので、登録することにしました。

3 マラソン、筋トレ

4 だいぶ鮮度が落ちた新人ですが、皆様の足を引っ張らないようにしたいと思います。よろしく願います。

上田支部 渡邊温美

私は、両親の仕事上、幼い頃より土地家屋調査士という職業が身近にありました。

結婚後、家族に何かあったときに支えられる自分になりたいという思いと、やりがいや生きがいを持って生きていきたいという思いが強くなり、身近にあった土地家屋調査士になろうと思いました。

現場をこなすたびに人様の大切な財産を扱うことの難しさを感じています。

色々お聞きすることもあるかと思いますが、よろしく願いいたします。

平成28年度新入会員測量研修会に参加して

伊那支部 清 水 功

平成29年2月の新入会員研修会に参加をさせて頂きました。内容は平板測量についてでしたが、学生時代しか経験が無かったので、作業の大変さを改めて感じました。調査士実務において現在平板測量を行う事は殆どありませんが、今でも平板測量成果として地図、地積測量図等が存在する中、当時の測量状況を考え、それをふまえて業務に取り組むことが出来るようになりました。今回の研修での経験は大変貴重なものであり自身の大きな財産となる事を実感しました。

新人会員研修会を受けて

長野支部 永 井 政 嗣

2月24日に新人会員測量研修会が行われ、平板測量について学びました。平板測量というと、一昔前の測量方法のイメージしかなく、実際に使っているところを見たこともなかったので、まさか自分でやってみるとは思ってもみませんでした。

午前中は器具等の説明でしたが、初めて見る目盛りが5cm単位のテープとアリダードがコンパクトかつ機能的に作られていることに驚きました。長年にわたって使われるアナログの技術は大したものです。午後は調査士会館の周囲での測量実習でした。最初、紙を張った平板に測芯針がうまく刺さらずズレてしまったり、平板用の三脚と平板の据え付けに戸惑ったり、傾斜のある箇所での測距が大変、私が視準を間違えてしまい逆打ちポイントが通路でなく墓地の中、などありましたが、完成した図とTSによる実測図の誤差が考えていたよりも少ないのには感動しました。

TSならば事務所に帰ってからCADが線を引いてくれるので早いし楽ですが、平板は現地で自分がプロットすることで、点と点が線で繋がっていくのを実感することができ、もしその場で誤りがあれば訂正ができ、何よりも土地を測っているという充実感があります。とは言え、決して簡単な作業ではなく、平板測量による地積測量図を作成していた先輩方のご苦勞をほんの少しだけですが知ることができました。

今回の研修を企画して下さった測量研修委員会の先生方には、日々の仕事のお忙しい中、丁寧なご指導をいただき本当にありがとうございました。

詰将棋

第27回



※解答は56ページにて掲載
(長野支部 北原 匡 尚)

【第1図は初期局面】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					香		王	笛		一
					銀	銀			香	二
								馬		三
							桂	桂		四
										五
										六
										七
										八
										九

▲ 先手 桂二

政治連盟に加入しましょう
政治連盟は調査士制度発展のために
力を尽くします

長野県土地家屋調査士政治連盟

会長 上原 兼雄
〒380-0872 長野市大字南長野妻科399番地2
電話 026-232-4566
FAX 026-232-4601

第27回詰将棋の解答

【第1図】より…

- 1手：▲4一馬 2手：△同玉
- 3手：▲3三桂 4手：△3一玉
- 5手：▲2三桂 【第2図】

【第2図は▲2三歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					歩		王	銀		一
					飛	飛			歩	二
							桂	桂		三
							桂	桂		四
										五
										六
										七
										八
										九

▲ 先手 なし

編集後記

今号から、前任の小池悠会員から編集委員長を引き継いだ、長野支部の竹田元（はじめ）と申します。

長野支部の品田尚志会員、飯山支部の浦野泉会員の三人で今年度の会報編集委員として活動します。広報部の皆さんと協力して「会報なごの」が滞りなく発行できるよう頑張りたいと思います。

ついこの間、新人会員の自己紹介の原稿を寄稿したと思っていたのですが、早いものであれから三年が経ち、自分が会報の発行に携わる側となりました。

その間に様々なことがありました。

私は高卒からずっと東京におり、40歳で長野に戻って開業しました。そのため、人間関係を

新たに築けるのか心配でしたが、今では素晴らしい仲間にもまれ、その心配もどこかに行ってしまいました。非常にありがたく思っています。

そして、私事になりますが、五月に父親が亡くなりました。

父も調査士だったので、もしかしたら過去に寄稿したり何かしらの形で関わっていたと思います。そう思うと、とても感慨深いです。

そしてあと3年で70周年を迎える「会報なごの」の歴史の一部を担うことができ、光栄に思います。

最後に、県内各支部の会員の皆様の協力で会報は成り立っています。

会員同士を繋ぐ会報の為に、寄稿へのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

会報編集委員長 竹田 元

会報なごの第201号

平成29年8月3日発行

発行 長野県土地家屋調査士会
会長 松本誠吾

編集者 広報部

印刷 中央プリント(株)

〒380-0872
長野市大字南長野妻科399番地2
TEL 026 (232) 4566
FAX 026 (232) 4601
URL <https://www.nagano-chosashi.org/>
E-Mail naganolb@nagano-chosashi.org



KAIHO NAGANO KAIHO NAGANO